



「明治天皇聖躅(せいちょく)」碑を訪ねて

平尾 修一

1 「明治天皇聖躅」碑を訪ねることのきっかけ

(1) CVVのみなさんとの出会い

平成14年に、大阪城の西を南北に流れる東横堀川を船で巡る「東横堀川クルーズ」の語り部を募集している記事を見た。

私は、大阪市内の西区や中央区の小中学校で校長をしていたとき、「まず子どもたちが寝起きしている地元のことを知ることが大切だ」という考えで近くの町や橋・川について調べ始めていた。その一端を、市民の方々にお話させていただき絶好の機会だと考え、「東横堀川クルーズ」に応募した。そして、そのとき、橋や川の語り部をしておられたCVVに仲間入りさせていただくことになった。

(2) 市民見学会の企画運営を担当



CVVアドバイスグループが、平成15年度第1回市民見学会を催すに当たり、私に市民見学会を企画運営してみないかと言われた。これについて、日頃南海電鉄高野線を利用して勤める中で、南に向かって走る車中から、左の山手（いわゆる上町台地）に緑の森が幾箇所もあり、季節ごとの移ろいに感動したりしていた。そこで、この森を訪ねようということで、「上町台地の緑の森を訪ねて」というテーマで、平成15年6月7日土曜日に、市民見学会を行うことを引き受けた。

(3) 二つの「明治天皇聖躅」碑との出会い

市民見学会の準備や下見をする中では、いろいろな発見や気づき・わかったことなどがあり、それらをまとめ見学の資料としたが、この下見の中で、二つの「明治天皇聖躅」碑との出会いがあった。一つは、帝塚山学院小学校の西にある帝塚山古墳の西角に立つ碑石。もう一つは、天下茶屋公園緑地堤の茂みの中に立つ碑石。どちらの碑も、高さ約2mほどの角柱で花崗岩製である。そればかりでなく、碑石の表には、正楷書体で、「明治天皇聖躅」、右面には、「大正十四年五月十日建立」、左面には、「大阪市青年



「青年団」と彫られているのである。違っているのは裏面だけで、帝塚山古墳近くの碑には「帝塚山」、天下茶屋公園の碑には「旧是斎屋」と彫られている。

このとき、「もしかしたら、大阪市内に、これと同じような碑石が、たくさんあるのではないだろうか」と思った。また、「なぜこのような碑石が大正 14 年 5 月 10 日に大阪市青年聯合団によって建てられたのだろうか」などの疑問が湧いてきた。

(4) 『大阪市政の八年』との出会いと、疑問の一部解明

いろいろな疑問が湧いていたとき、JR 鶴橋駅近くの古本屋で、昭和 11 年 4 月発行の『大阪市政の八年』と背表紙に書かれた本が目にとまった。この本は、大正 14 年から昭和 8 年までの 8 年間、大阪市議会議長をしていた白川朋吉氏が述べた祝辞や式辞等を、643 ページにわたってまとめた非売品の本であった。

この本の、昭和 6 年 11 月 3 日付け「明治天皇遺跡顕彰事業報告式辞」の中に、次のようなことが述べられていた。以下に、原文のまま、一部を引用する。

「(前半略) 大阪市青年聯合團这回市内に於ける明治天皇御駐輦の遺跡を顕彰し永遠に聖旨をして鴻恩に報ひ奉らんことを期し顕彰地点三十箇所に碑石を建立し本日茲に最も因由ある明治の佳節をトして完成報告式を挙行せらるるは誠に有意義にして感激措く能はざるところなり (後半略)」

この記述から、大阪市青年聯合團が明治天皇御駐輦の遺跡を顕彰し、市内 30 箇所に碑石を建てたことがわかった。

2 『明治天皇聖蹟』碑を求めて

(1) 『明治天皇行幸誌』の出会いと碑石探索の開始

『明治天皇聖蹟』碑が大阪市内に 30 本建てられたことはわかったが、どこに建てられたのがわからない。幸い、本田小学校に勤めていたとき、近くにあった史蹟、「川口運上所趾」と「前大阪府廳」に、それらしきものがあったのを思い出したが、合計 4 本であり、残り 26 本の所在が全くわからない。



そんなとき、帝塚山古墳の頂上に立つ「天皇駐蹕(チュウツ)碑」に関連した事柄を調べたとき参考にした、『明治天皇行幸誌』のことを思い出した。

この本は、大正10年6月10日に「市立大阪市民博物館」が発行したもので、明治天皇が、大阪に行幸された年代ごとに、行幸された場所や当時残っていた行幸に関する品物や行在所などを記している。この本の序において、当時の池上四郎大阪市長が次のように述べている。

「(前半略)惟フニ本市ハ、畏クモ王政維新ノ際先帝ノ始メテノ行幸ノ地ナリ、後東京遷都ノ盛儀ヲ行ハセラレタリト雖モ、爾来鳳輦ヲ本市ニ駐メラレ、或ハ産業ノ発達ニ、或ハ教育ノ振興ニ深く軫念アラセ給ウ、本市今日ノ発展ハ實ニ先帝ノ龍恩ニ由來セリ (後略)」



この本から、明治天皇(皇后を含む)が、大阪に8回行幸され、このことを末永く後世に伝えようとしたことがわかると同時に、この本に記されている行幸場所を訪ねれば、今求めている「明治天皇聖蹟(碑)」に辿り着くのではないかと考え、この本を手がかりに碑石探索を開始した。

(2) 碑石探索とホームページ情報との出会い

碑石探索は、次のような具合である。明治10年に、「梅田停留所」にお越しになられたというので、初代大阪駅(梅田停留所)があったという、現在の大阪中央郵便局あたりをぐるぐると捜し回り、また、明治元年に「天保山」にお越しになられたので、天保山の辺りをぐるぐる探し回った。しかし、昭和の初めころの行幸場所は括弧書きされていても、碑石を建てた場所が特定されていなかったため、碑石探索の初期の段階では、碑石建立場所や発見は、遅々として進まなかった。それでも、予想した場所で碑石を見つけ出したときは、大きな感動をおぼえた。

なかなか碑石を発見できないので、今までにも情報を得ていたインターネットを使って調べてみることにした。「偕行社」という施設について調べていたときのことである。『明治天皇遺跡顕彰碑』という題でホームページを開いておられる方があり、「明治天皇記念館・泉布観記録」という本の中に書かれている、「明治天皇遺跡顕彰の碑 建設地リスト」を掲載しておられた。

このことを CVV の会合で話題にしたとき、大阪市立大学にお勤めの角野さんが、大学の図書館にあるということで、借りてきていただき、その本を閲覧させていただいた。

この本によって、今まで苦労したことが嘘のように碑石探索が進み、ある日には、1日で7箇所も碑石場所を見つけることができたこともあった。

(3) 『明治天皇記念館・泉布観記録』からわかったこと

『明治天皇記念館・泉布観記録』は、昭和10年11月3日に発行されたものだが、明治天皇大阪行幸の概略、「明治天皇記念館・泉布観」建設の趣旨、建設計画の概要(設立趣意・設立期成会のメンバー、資金募集趣意及びその寄付金額、新築工事並びに設備概要等)、それに、「明治天皇聖蹟」碑について

て、明治天皇聖躅地概要・顕彰地点・建碑地点・建設年月日等が書かれている。



この記録から、次のようなことがわかった。

- ① 「明治天皇聖躅」碑は、大正天皇御成婚 25 年奉祝事業として 市内 31 個所に建てられた。(一箇所は重複している)
- ② 明治天皇の聖恩を永久に伝えるのに、明治天皇 5 人の皇子の内一人だけ成人に達した嘉仁(ヨシヒト)親王(後の大正天皇)が、明治 33 年(1900)年 公爵九条道孝の四女節子(後の貞明皇后)と結婚され、大正 14 年(1925)が御成婚 25 周年に当たることから、建立年とした。
- ③ 30 箇所一度に建てられたのではなく、昭和 3 年九月から昭和 6 年 11 月までに建てられている。建立が遅れた理由は、世界的な不況や大正天皇崩御等が考えられる。

(4) 建碑地点の探査と碑石存在の確認

いよいよ本格的に碑石を探査し始めた。すぐに見つけることができたものもあれば、なかなか見つからなかったり、あるいは、今も見つからないものもある。以下に、現在までに見つかった碑石と見つかっていない碑石を、顕彰地点別に記す。

① 見つかった碑石・・・21基

坐摩神社・元大阪府廳・天下茶屋是齋屋・
八軒屋元紀州藩邸址・帝塚山・造幣局・
津守邸正印殿跡・大阪紙砂糖製造所址・
大阪上等裁判所址・偕行社・大阪城・臨
時軍事病院址・住吉神社・砲兵工廠・大
阪裁判所址・西井茶屋址・川口運上所址
(大阪府外務局址)・築港事務所・製藍所
朝陽館址・大阪英語學校址・



- ①' 見つかったが、現在、塀やシートで覆われている・・・2基
泉布観・前大阪府廳

(参考)

写真左：「明治天皇聖躅」碑

右：「明治天皇御上陸之所」碑
(明治5年、明治天皇が京都から船で淀川を下り、この泉布観横の浜にお着きになったのを記念して建てた碑。建碑年・建碑者刻印なし)



- ② 見つかっていない。(戦争被害のためなくなった)・・・5基
津村別院・澄心亭・大阪師範学校址・大阪医学校址・天保山
- ③ あつたとわかる写真がある。・・・3基
大阪尋常師範学校址・灘波別院・天王寺公園

3 今、『明治天皇聖躅』(碑)を訪ねて」でまとめていること

大阪以外にも明治天皇が行幸されたところはたくさんある。明治政府が、如何に中央集権国家を築き上げようとしたかがわかるものではある。

しかし、碑石が建てられている場所を訪ねることによって、明治時代の大阪や近隣府県の様子がわかると同時に、さらっとしか学習してこなかった大阪の歴史を、具体的に知ことができる。明治天皇行幸誌に書かれている行幸について、行幸順に道筋や碑石・建物・遺跡・事物等を訪ねることにより、もっと生き生きした歴史や地誌等の学習ができるのではと思います、今、まとめにかかっている。

この仕事に取り掛かって4年目。約200ページに及んでいる。現在、明治10年の第3回目大阪行幸をまとめている。この年は、京都・伏見・宇治・奈良・堺を経て大阪に行幸しておられるが、西南の役があった年。行幸の道筋をたどり、その地域の人々と話をしたり、教えていただいたり、そのときの様子を思い描きながら実際に歩いてみると、新しい発見や出会いがあつて、大変楽しい。「求めよ。さらば与えられん」の実際に感謝しつつ、ライフワークとして取り組んでいこうと思っている。

平尾修一さんのプロフィール

昭和 17 年 3 月、大阪市にて出生。39 年 3 月大阪学芸大学社会科学科卒業。

異色の元小学校長である。世の校長先生が全てこの人のように積極的かつ挑戦的であるならば、日本の将来は希望に満ち溢れているのだが……。

CVV が平尾さんに出会ったのは、平成 14 年 7 月のこと。「水都再生＜東横堀川からのメッセージ＞平成の船祭り」イベントの”語り部”打ち合わせの場である。

そのご縁で、「お箸で橋づくり」イベントに協力をお願いするなど、ごく自然な形でまんまと CVV 仲間に引き入れた。

現役時代に「川口・外国人居留地の歴史」や「大正橋・音符高欄の由来」などのユニークな研究実績があり、今もなお大阪市内の「明治天皇聖躅」碑や明治時代の大阪の姿・史跡等の探査・追求に余念がない。

平尾企画の市民見学会「上町台地の緑の森を訪ねて」シリーズは最高的人气メニューで、毎回 80 人ちかい参加者がある。中泉尾小学校の総合学習「わがまち探検隊」への支援活動は昨年で 4 回を数えるが、全て平尾さんの主導によるものである。

目下、「防災学習」出前授業の企画に忙しい。

学校運営に関しては、大阪市立本田小学校長や南小学校長（精華小ほか 3 校統合）を歴任し、また全国小学校音楽研究会副会長や大阪市立小学校長会・法制部長の実績もある。定年退職後に名門私学・帝塚山学院講師として請われた所以であろう。

現在は、高槻地区保護司会犯罪予防部長として地域の安全や青少年等の更正・保護活動の重責を担っている。詩吟六段の腕（声）前も、一度聞いてみたい。

（金山正吾 記）